

古墳出土品が語る古代の物流

行田市内の古墳から出土する埴輪や石室の石材の産地を探ると、当時の交易、物流などの一端がうかがえます。

市内出土の埴輪は、使われている粘土や工具、造作の特徴などから、ある程度産地が特定されます。例えば、酒巻古墳群の酒巻14号墳から出土した人物埴輪は、顔の造作の特徴から吉見町の和名埴輪窯で製作されたことが判明しています。また、埼玉古墳群の各古墳

元荒川流域から東京湾岸地域の数多くの古墳に埴輪を供給しており、この当時、荒川や元荒川を利用した広範囲に渡る交易が行われていたことがうかがえます。また、埼玉古墳群の將軍山古墳の石室には、千葉県富津市金谷海岸で採れる房州石が使われています。埴輪と同様に荒川や元荒川を利用して房州石が運ばれたようです。

市内の他の古墳の石室には、秩父地域で採

から出土の埴輪についても、鴻巣市の生田塚埴輪窯を中心に、東松山市の桜山埴輪窯などで製作されたことが判明しています。生田塚埴輪窯は元荒川流域に位置しており、埴輪は元荒川を利用して埼玉古墳群に運ばれたと推測されます。

生田塚埴輪窯は、埼玉古墳群以外にも市内の真名板高山古墳、千葉県市原市の山倉1号墳、神奈川県横浜市の北門1号墳など、荒川



八幡山古墳石室の巨大な緑泥片岩

れる緑泥片岩や群馬県の名山二ツ岳の噴火で噴出した角閃石安産岩がよく使われています。「関東の石舞台」とも呼ばれる八幡山古墳石室には、榛名山麓の角閃石安山岩、荒川上流域の緑泥片岩、比企丘陵地域の砂質凝灰岩など広範囲に渡る複数の地域の石材が豊富に使用されています。八幡山古墳を築いた権力者は、それら広範囲の地域と交易があり、石材を調達できる力を持った人物であったと考えられます。

(文化財保護課 中島洋一)

こぜに ちゃんが行く!

古代蓮会館

地上50メートルの展望室が自印の古代蓮会館。平成13年4月のオープン以来、約71万人の方が訪れている、行田を代表する観光名所なんだ。

館内には、行田の自然や生き物の様子を再現したジオラマや古代蓮観察コーナーなどがあって、「見て、触れて、聞いて」楽しみながら自然を学習できるんだ。また、360度の大パノラマが広がる展望室からの眺めは最高。天気の良い日には東京スカイツリーを見ることができよ。

7月中旬からは、世界一の規模を誇るたんぼアートが見頃を迎えるから、ぜひ展望室から見てくださいね。

今月の表紙

5月21日、太田西小学校で「ブラジル研修員との交流会」が行われ、3年生の児童22人が「日本ブラジル交流カルタ」を楽しみました。

この催しは、JICA(国際協力機構)の事業であり、埼玉県立総合教育センターへ研修で来日した4人のブラジル人教師と児童がお互いの国について理解を深めるために行われたもの。児童らは、カルタを通してポルトガル語のあいさつや簡単な単語などを学び、笑顔を見せながらブラジル人教師との交流を図っていました。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています